OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	俳句十句
Author(s)	入江, 來布
Citation	懐徳. 1940, 18, p. 56-57
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/89055
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

添ひ興の人ら勞りくれつつも興は窪みをゆきて重たし
竹の竿長しくて母の骨を拾はむとして音立ちにけり
母のもの整理してゐる押入に皺を伸したる紙袋あり

爽天抄

入江來布

大陸の爽天をおもふけさの秋
夕影や露滴相識る涼しさに
露のうち桔梗實とはなりにけり
桔梗のふたゝひ咲きし旦かな
稻妻や須臾の雲間に妙音天
盆の月櫻の宮の燈ろかな
秋の蚊となりつゝ草の茂りかな
霧にうく星やは海の果てしらず
霧の夜のしづかなるより秋の海

松賑かに秋の涼みの海べかな

○

白井文溪

涼しさを山寺かげり石佛
蓑虫の糸の重みを風に散る
道のべの水乏しさを夾竹桃
雷や樹の雫して裸の子
濡れ浴衣雫して干す下芙蓉
紫陽花の闇に裸の人の來る

○

山田平歩

夏の花風にうつりて白き哉
日かげりて冷き風や蓮の池
凌宵の花に風立つ家の軒
みささきの五位の遠音や田草とる
あまり水の落つる音ある青田哉